



10月12日(木)・13日(金)に本校の学園祭である「きりの子まつり」が行われました。今年、大学の学生会館を会場として舞台発表を行いました。

台詞を頑張りました！



小学部 劇遊びの発表

小学部版「ブレーメンの音楽隊」。ボール投げや影絵パズルで、どろぼうさん達を驚かせました。主役の6年生によるトーンチャイムの演奏に感動したどろぼうさん達。一緒に音楽隊になって「にじ」を歌いました♪

19人で楽しく演じました！



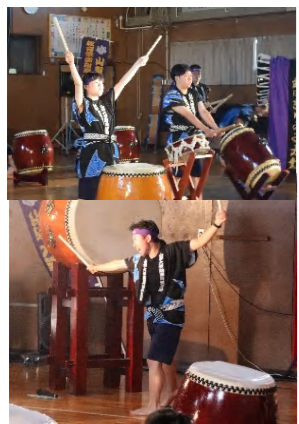
中学部 劇の発表



中学部は、「カラフルドリーム！夢の鳥」をテーマに、美術の時間に小グループで創作した背景画や職業・家庭の時間に作った小道具などを使った手作りの劇を発表しました。クライマックスは掛け合いの全員合唱「ビリーブ」も高らかに、「ふぞくの森の夢」が表現できました。



高等部 太鼓の発表



高等部は「武田きりの子太鼓」のビデオ発表をしました。23名全員が心を一つに合わせ、伝統の曲を演奏しました。3年生のスペシャルステージでは、一人ずつソロ演奏も披露し、魂のこもった熱い演奏に感動した観客の皆様から、大きな大きな拍手をいただきました。



仲よし会より

今年のきりの子まつりのテーマは、「みんながしゅやくかがやくえがお きりの子まつり」でした。一人ひとりの笑顔が輝く舞台発表を目指し練習に励みました。そして、全校児童生徒が力を合わせて、自分たちの心に残るステキなきりの子まつりにすることができました。

仲よし会 会長 三浦 大幹



きりの華23

Kiri-no-ka

第8号
2023年12月発行

山梨大学教育学部附属
幼稚園・小学校
中学校・特別支援学校

新型コロナが第5類に移行後、すべて元の状況に戻すのではなく、取り組みの重要性・必要性を考えながら、コロナ対策に加えインフルエンザへの対策も行い、充実した学校園生活となるよう日々取り組んでいます。

幼稚園

毎年、幼稚園では、年長児が育てたサツマイモを使って『やきいも会』を楽しんでいます。一年前のやきいも会の後、一人1つずつ味わったお芋のあまりのおいしさに「さくらさん(年長)になったら一人2個お芋を食べたい！」という目標をもった子ども達。念願の年長に進級し、早速『やきいも大計画』を始めました。「たくさんお芋を作るにはどうしたらいいの？」年長さくらぐみの子ども達はおうちの人に聞いたり、友達と相談したりしながら、色々と考え始めました。「カルシウムが必要じゃない？」「ビタミンだよ」「お父さんが愛情も必要って言ってた！」など、色々な意見が出てきました。「もっと広い畑にしよう！」とお芋畑もこれまでの倍以上の大きさにみんなで広がっていきました。でも「サツマイモ栽培」は、子ども達にとっては未知の世界。そこで、山梨大学の生命環境学部にも詳しい「土博士」がいるらしいと伝え、「幼稚園に来て教えてほしい」と、子ども達は「土博士」へのお手紙を書き始めました。その思いが届き、念願の土博士が来園。子ども達にわかりやすいように、サツマイモ栽培について教えてくださり、しかも、土づくりと苗の植え付けまで一緒に取り組んでくださいました。子ども達にとって「専門家」との出会いは新鮮で、とても良い刺激になったようで、暑い夏の間も水やりや観察に熱心に取り組むようになっていきました。



10月、期待を膨らませて臨んだ芋掘りでは、何と51個のサツマイモを収穫！子ども達は「たくさんとれた！！」と大喜びで、幼稚園みんなのために焼きいもの準備を進めていきました。「小さいクラスにもわかるように」と、おいしそうお芋を描いたポスターを作ったり、附属中学校に大きな袋いっぱい落ち葉を拾いに行ったりと大活躍。11月14日(火)には、幼稚園の園庭でたき火をして、全園児で念願のやきいも会を開きました。『やきいも大計画』のミッションを達成した年長さくらぐみの子ども達は、満足気に美味しい焼きいもをほおぼっていました。

1年越しの願いを叶えるために試行錯誤しながら取り組んできた子ども達。自分達で苦労して育てたお芋の味は格別だったことでしょう。最近、様々な事情によりたき火を使う焼きいもの実施が難しくなっているようです。薪のはぜる音や煙の匂い、おき火の中で香ばしく焼きあがるお芋の味は、子ども達にとって大事な原体験となることでしょう。近隣の皆様には、日頃より本園の教育活動にご理解、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

幼稚園より

12月9日(土)、公開研究会を開催し、4年ぶりに保育の公開と白梅学園大学の佐久間路子先生を講師に迎えた講演会を実施しました。



あおぎり講座 ～山梨大学と附属小の連携～

10月21日(土)にあおぎり講座を開催しました。この講座は、山梨大学の附属学校というメリットを生かし、医学部・生命環境学部・工学部・教育学部の先生方の専門分野の講義を受けるといって大変貴重な学びの機会となっています。今年度は、大学より9名の先生方にご担当いただき、山梨大学甲府キャンパス内の各教室で、5年生以上の児童と希望の保護者が8つの講座を受講しました。各先生方には子供たちの興味関心を惹く内容について、大変分かりやすく楽しく教えていただきました。保護者の皆様も、普段、なかなか受講する機会のない大学の先生の講義をじっくり聞くことができ、有意義な時間を過ごされたのではないかと思います。



宮崎先生(校長先生)
深海の生物の調査



加賀先生
心臓外科医の仕事体験



綿打先生
超伝導と低温の世界

がんばった あおぎり大運動会

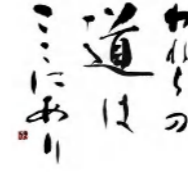
テーマ「One for all All for one
～絆を一つに最高の舞台を創りあげよう～」

9月30日(土)にあおぎり大運動会が盛大に行われました。運動会に向けて取り組んだ体育の時間では、目標に向かって一生懸命に運動会の練習をがんばっている子供たちの姿をたくさん見ることができました。その成果が表れた今年度のあおぎり大運動会は、テーマの通り、全校のみんなが心一つになって、一人ひとりが輝く最高の舞台となりました。



あおぎり祭り

11月24日(金)・25日(土)に児童会主催のあおぎり祭りが行われました。たてわり学級ごとの準備や運営などの取り組みを通して、異学年児童との交流が図られ、充実した活動となりました。また、保護者も大勢参観し、共に楽しみました。



多くの感動を呼んだ、第53回桐龍祭

9月15日(金)、16日(土)の2日間にわたり、第53回桐龍祭が行われました。猛暑の中の実施ではありましたが、1日目の文化部門では、全校生徒が体育館に集い、日常の学習で積み上げてきた成果物や学年劇、文化部の展示や発表などを見学し、お互いの頑張りを讃え合うことができました。3年ぶりとなる対面かつリアルタイムの観劇は、生徒たちの気迫溢れる演技を感じることで、臨場感のある発表であったと感じました。2日目の体育部門では、各クラスやブロックで取り組んできた練習の成果を、リレーや長縄跳びなどの競技を通して試し合いました。大きな声援を送り合ったり、懸命に駆けたり跳んだりする様子が見られ、多くの保護者の方に見守られながら、熱い一日を過ごしました。2日間を通して、生徒たちの自主的な取り組みが見られる、素晴らしい学園祭にすることができました。



可能性は無限大

「大学の附属学校として、何か独自に取り組むことはできないだろうか」というPTAの方々の思いから始まった若桐講座も今回で13回目となりました。教育学部、医学部、工学部、生命環境学部から2名ずつ計8名の先生方に大学の教室にて専門分野の講義をしていただいたことは、生徒にとってとても貴重なものとなりました。



生徒は、自分が自分として生きるために学び続けることや、自分らしい生き方を求めていくことの大切さを今回の講義から学ぶことができたようです。



当日は80名を超える保護者の方にも参加していただき、家族で学びを共有し合う素敵な姿も見られました。この学びは生徒の将来に必ず生かされることでしょう。

ホールに響く附属中の文化

県民文化ホールでは2年ぶり、完全な形では4年ぶりとなる合唱のつどいが行われました。取り組み期間から制限のない中での久しぶりの合唱のつどい、各クラスから聞こえてくる合唱曲はクラスの雰囲気や長所を表したものとなりとても嬉しく思いました。コロナ渦で数年前からはコンクール形式をやめ発表会形式での合唱のつどいとなりました。賞を取るために合唱を歌うのではなく、より良いクラスにするために声を合わせる。「合唱はクラスづくり」という合唱のつどいを行うことの本質を附属中の生徒たちは共有しているのだと思います。だからこそ、うまくいかない時でも投げ出したい時でもみんなで何が問題なのかを話し合い、目の前の課題をクリアにしていける



できたのだと思います。文化ホールに附属中伝統の歌声が帰ってきました。緊張の表情で歌い始めると、それはクラスを表す最高のストーリーを奏でます。歌い終わってステージを降り、ほっとした表情で見つめる先には共に歩んできた仲間と担任の先生の最高の笑顔がありました。